

第23期 役員活動を振り返って

■一般社団法人日本社会福祉学会 会長 白澤 政和（桜美林大学大学院）

古川孝順前会長からバトンを受けて、早2年の任期を終えようとしています。まずは、この間、多くの会員・役員の皆さんには多大なご支援・ご協力を賜り、大過なく重責を終えることが出来そうなことに関して、心から感謝申し上げます。

会長就任時に、学会の課題として推進すべき以下の8点の提案をさせて頂きましたが、私の力不足から、積み残してきたことも多々あります。

- 1 一般社団法人化のもとの学会の仕組みのルーティン化
- 2 学会の本来の目的である学問水準の推進
- 3 学会としての国際的な学術交流の一層の推進
- 4 学会の職能団体や養成団体との連携の強化
- 5 若手研究者の研究奨励による人材の養成
- 6 社会や市民への貢献の推進
- 7 学会員の減少傾向を食い止め、徹底したコストの抑制
- 8 継続的に事務業務が実施できる事務局体制のあり方の検討

まずは、2010年に認定された一般社団法人のもとで、学会運営も、1年に2回の大会開催や、評議会と理事会の役割の明確化等、新たな運営のシステムを定着させることが第1の責務と考えてきましたが、これについては、ほぼ定着できたと思っています。また、法人化前の規定等についての改定作業もほぼ終了することができました。

また、学問水準の向上に向けて、英文誌の改革を行い、次期の理事会に引き継がれますが、学会の英文ホームページを立ち上げ、そこでオンライン英文誌としてスタートさせることで進んでいます。また、国際活動では、韓国との交流から中国を加えた国際交流に発展してきましたが、財源の問題を含めて、また他国を含めた交流をいかに進めていくかの課題が残っています。

学会会員については会員数の減少化が起こっており、これを食い止めるべく、若手研究者の研究を奨励すべく、事前に「学生会員」の登録をされた方の大会参加費を免除したこと、また若手研究者をサポートするシンポジウムやワークショップを行ってきました。未だ、会員の減少を食い止めることはできておらず、若手の研究者にとって魅力ある学会にしていく過程にあります。

私が23期で進めたかったが全く手が付けられていないことが、職能団体や養成団体との研究成果を介した連携です。会員が生み出す研究でのエビデンスを施策や実務に活かしていくシステムを構築し、研究と施策や実践がフィードバックされていくことが、会員の研究の質を高めていくものと考えています。そのため、これについては、多方面からの協力を得て、今後は是非実現して欲しいと願っています。

最後になりましたが、私は会長の退任だけでなく、理事などの業務からも卒業することになります。今後は一会員に戻り、研究・教育に精進してまいる所存です。社会格差等

社会福祉の課題が顕在化している時代にあって、日本社会福祉学会が時代の要請に応じて益々発展することを心から期待しています。